

一般社団法人山形県経営者協会 発行

「山形経協」No.158 (2019/1/1号) の

23 頁に生産性向上支援訓練の受講記事
が掲載されました。

当該協会様においては、平成 30 年 12
月に「生産性向上支援訓練－成果を上げ
る業務改善－」コースを 2 コース実施し
ていただきました。



労働生産性向上へ初のセミナー

山形市と三川町で実施

働き方改革の推進に不可欠な労働生産性向上という課題に対処するため、県経営者協会は12月10日と18日、それぞれ山形市と三川町で「生産性向上支援訓練－組織力強化実務セミナー」を開催した。セミナーは6時間の長丁場だったが両会場合わせて43人が受講。経団連事業サービス人事賃金センター長の平田武さんを講師に迎え、深刻な人手不足に対応する上でも業務削減と事務の効率化がいかに大切かを学んだ。

平田さんは効率化に成果を上げている企業の取り組み事例を引きながら「生産性向上はいかに少ないコスト（労働量）で大きな成果を生み出すかがポイント。限られた人員で労働量を減らすために組織の無理・無駄・ムラを見直さなければならない」と指摘。例えば、煩雑な文書（資料）づくりと長時間の会議がいかに業務の効率化を阻んでいるかを解説した。その上で業務の“見える化”をキーワードに挙げ「すべてをいったん棚卸して本当に必要かどうか例外を設けなくて判断、目的や機能の分からないものはっきりしない業務は大胆に取りやめるべきだ」と強調。こうした取り組みを進めるために重要なのはトップダウン、企業トップの発信力だ一と説いた。一方、社員個人の仕事の進め方の見直しについて、時間管理の重要性に言



三川町

及。アポイントや約束など時間が決められている狭義のスケジュール管理と、報告書、資料作成、事務処理など時間配分が任されているタスク管理を一緒にすること、後回しにしがちなタスク管理については優先順位をつけてこなすようアドバイスした。

セミナーは（独法）高齢・障害・求職者雇用支援機構山形支部・山形職業能力開発促進センターから委託を受けて初めて実施した。中小企業の生産性向上に関する課題と人材育成ニーズに対応した職業訓練の一環。県経協はセミナーを実施するに当たり会員企業を対象にアンケートを行い、働き方改革に取り組む上で課題と感じていることや受講したいテーマなどを聞き、生産性向上に資する業務改善に焦点を当てて企画した。